

普及活動情勢報告

情勢報告（平成27年9月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ナバナ栽培講習会



冬場の基幹品目であるナバナの栽培講習会が8月26日にJ A高知はた十和支所、31日に大正支所で開催され、それぞれ78名と6名の生産者が出席しました。

当日は、J A高知はたからの栽培管理指導の後、今年度から導入を予定しているパーシャル大袋包装によるダンボール箱出荷について、品質評価とコスト低減効果を普及所が説明しました。

今後は、生産者の要望によって大正地区で今年度実施するパーシャル小袋包装の実証販売をJ Aと連携し支援していきます。

J A四万十ピーマン部会総会



9月18日、J A四万十ピーマン部会総会がJ A興津支所で開催され14名が参加しました。

普及所からは、「ピーマン促成栽培における炭酸ガス施用事例」（平成27年度P R版）をもとに、炭酸ガスの施用による増収効果を説明しました。加えて、9月30日に予定されている新園芸システム研究会の総会・講演会への参加要請も行いました。

H28園芸年度は、2名減3名増となります。すでに定植の始まった農家もいるので、生産安定のために支援していきます。

J A四万十酒米部会 収穫適期現地検討会



9月3日、J A四万十酒米部会による収穫適期現地検討会が開催され、関係機関や生産者等合わせて13名が参加しました。

普及所は、部会員やJ A職員と一緒に生産者のほ場を巡回し、今後の栽培管理や収穫適期について助言しました。

生産者からは「今年は倒伏もなく作柄も良い」の声が聞かれ、部会長も積極的に生産者と意見交換していました。

普及所は、今後も酒米の品質向上に向けてJ Aと連携し酒米部会の活動を支援していきます。

「四万十の栗」技術チーム会



9月15日に栗技術チーム会を開催しました。

本チーム会は、四万十の栗再生プロジェクト協議会に承認を受けて、大正、十和、西土佐地域のJA指導員、栗技術者、普及指導員等で組織し、指導者間の技術共有と生産者への技術の普及を主な目的としています。

今回は、JA指導員をチーム長に選任すると共に、普及所が事務局として運営していくこと、今後の活動、モデル園への看板の設置等について協議しました。

次回のチーム会は、栽培に関する考え方と実技を中心とした内容で11月に開催することになりました。

五縁の会 営業を兼ねた市場調査



9月10日、6次産業化推進事業による6次産業化支援チームの取り組みとして、五縁の会（3名）が、原木椎茸で作った佃煮の商品「くびっ茸（3種類）」、「しいたけの鰹煮」の販路拡大に向け、高知市のホテルや香美市の量販店等、3ヶ所で営業を兼ねた市場調査を行いました。

当日は、商品のサンプル、商品提案書を持参し、商談を行うことで、訪問先のホテル、量販店との商談も成立し、新たな販路の開拓につなげることができました。

普及所は、今後も販路拡大に向け取り組む五縁の会を支援していきます。

ユズ労働力の実態調査

9月24日柚子部会役員会



大正・十和地域では、農業者の減少・高齢化等を受けて、関係機関等で営農継続のための支援の仕組みを検討しています。

その一つとして、6月にJA高知はた十和支所柚子部会65人を対象に、作業労働力についての調査を行いました（回収率63%）。

その結果、生産者は70代以上が4割を占め、7割が家族と親族の労働力で生産、雇用は60日以内が9割を占め、うち60代が6割に上ることが明らかとなりました。

この結果を、9月24日の役員会、その後のJAユズ部会目慣らし会等で生産者にかえし、支援の仕組みについて検討していきます。

第2回集落営農塾の実施



9月8日、JA四万十において、集落営農の法人についての研修会を開催しました。

法人設立に向けた、法人化の目的の明確化やビジョン、計画、ルール等の作成について、(株)サンビレッジ四万十代表取締役浜田氏による事例説明を交えながら、普及所から説明しました。

参加者からは、担い手の確保等についての質問が出ました。

今後は、先進事例の研修等による情報提供を計画しています。